

I 全体評価

1 総 評

全体として年度計画を順調に実施しており、概ね着実な業務の進捗状況にある。

- ・ 平成27年度は、第二期中期目標期間の3年目となる折り返しの年であり、単年度計画に対する実績という点でも、また第二期中期計画全体の進捗という点でも、着実に成果を上げていると評価できる。
- ・ 病院事業については、3つの重点医療（血管病、高齢者がん、認知症）において、最新の機器と高度な技術を活用した難易度の高い鑑別診断や低侵襲な治療の提供に努めた。また、救急医療から在宅医療に至るまで、地域の医療機関等との連携に基づき、高齢者が地域で安心して生活できるよう、医療体制を強化した。
- ・ 中でも、二次救急医療機関及び東京都地域救急医療センターとして、地域の医療機関とも協力・連携しながら、救急患者の受入体制を強化し、平成26年度に続き救急医療の実績を伸ばしたことは大いに評価できる。
- ・ 研究事業については、これまで蓄積した糖鎖の研究から、複数の指定難病の発症原因を解明するなど、画期的な成果が得られ、今後の臨床応用や実用化が大いに期待できる。また、高齢者が安心して生活するための社会環境づくりに関して、様々な視点から研究に取り組み、成果を還元している。

2 都民に提供するサービス及びその他の業務の質の向上に関する事項

<高齢者の特性に配慮した医療の確立と提供、地域連携の推進>

- ・ 血管病医療について、最新機器の活用と高度な技術により、低侵襲で効果的な治療を着実に実施するとともに、植込型補助人工心臓の施設基準を取得するなど、引き続き高度かつ多様な治療を提供する体制を整備した。

- ・ 高齢者がんについて、内視鏡治療体制の強化を図り、低侵襲な鑑別診断や治療の実施件数を大きく伸ばすとともに、緩和ケアの充実に努め、がん診療体制の強化を図った。
- ・ 認知症医療について、最新の機器と高度な技術により、早期診断の推進及び診断精度の向上を図るとともに、都の委託により、認知症ケアに従事する医療専門職等の研修拠点として、新たに認知症支援推進センターを設置し、各種研修等を実施した。
- ・ ICU・CCUの効率的運用等により救急受入体制を強化するとともに、急性大動脈スーパーネットワークに参画するなど重症度の高い患者も含め、積極的に受け入れを行った。
- ・ これらの取組により、高齢者の急性期医療を担う病院として、その役割を果たしていることは高く評価する。

<高齢者の健康の維持・増進と活力の向上を目指す研究>

- ・ 病院と研究所が連携して研究を行い、高齢者の頻尿を皮膚刺激によって制御する「過活動膀胱抑制器具」が医療機器として承認されたほか、認知症の原因疾患の一つであるエオジン好性核内封入体病に関して、皮膚生検による判別診断の有用性について学会報告を行った。
- ・ 糖鎖構造の異常が、指定難病である福山型先天性筋ジスロトフィーや網膜色素変性症の発症の一因であることを解明したほか、膵臓がん病変部周辺の形態異常が見られない膵管組織や、悪性化が見られる前の膀胱腫瘍において、テロメア長の短縮を確認し、がん化や悪性化のリスク評価としてテロメア長の測定が有効である可能性が示された。
- ・ このほか、高齢者の世代間交流についての長期介入研究から、社会貢献活動が心身機能の維持改善にもたらす効果を明らかにし、高齢者ボランティアの支

援のためのコーディネートマニュアルを作成し、社会に還元した。

- 病院と研究所が一体化した法人であるメリットを活かし、着実に研究成果を挙げていることは高く評価できる。今後は、さらに研究成果を臨床応用につなげる取組の推進に努めてほしい。

<高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成>

- 医療の質及びサービスの向上を図るため、職員の専門性の向上に向け、認定医や認定看護師などの資格取得の支援を行ったほか、医師事務作業補助者の人材の確保等に努めた。
- 研修医等に対する高齢者医療に関するセミナーの開催や連携大学院からの研究生の受入に加え、新たに外国人医師臨床修練の受入など、次代を担う人材の育成に貢献した。今後も、地域の医療・介護を支える人材や次代の高齢者医療・研究を担う人材の育成に取り組んでほしい。

3 法人の業務運営及び財務状況に関する事項

- 今後の病院運営について検討するワーキンググループの設置や職員表彰制度の導入など、業務運営の改善及び効率化に積極的に取り組んだ。
- 病院部門における新入院患者の確保や病床利用率の向上に向けた取組、新たな施設基準の取得等により収入の確保に努めた。
- コストの縮減に向けて、後発医薬品の採用促進や、手術室で使用する材料についてもSPD受託業者と運用方法を定め効率的な材料管理に努めるなど、様々な取組を行った。
- 今後も、経営分析を踏まえた効果的な取組やリスク管理の強化を推進してほしい。

4 その他

(中期目標・中期計画の達成に向けた課題、法人への要望など)

- ・ 平成28年度は、第二期中期目標期間の4年目となる目標達成に向けた重要な年度である。
- ・ 高齢者医療・研究の拠点として、その役割を着実に果たすとともに、第三期中期目標期間を見据え、センターの医療、研究を取り巻く状況を踏まえながら、地方独立行政法人の特性を活かして経営基盤の強化を図り、職員一丸となって目標達成に向けた一層の発展を期待する。